

地域再生のための 「福祉開発マネジャー」 養成プログラム

地域共生社会の実現に向けた
重層的支援体制整備に求められる
人材の養成！

Welfare
×
Development

学ぶのは
「答」ではなく
答を創り出す
「力」です



<通信・通学融合型プログラム>



プログラム内容

「地域再生のための『福祉開発マネジャー』養成プログラム」は、福祉と開発の統合概念と実践方法論、各地現場との間で培われた連携協力関係、革新的な教育メディアとインフラの蓄積を、研修事業として還元する「履修証明プログラム」(1年間)です。

総開講時間 125時間(予定)

修了要件 1年間に開講7科目のうち「講義科目」から2科目以上、「演習科目」から1科目以上、かつ「フィールドワーク(※1)」および「課題研究(※2)」を履修し、修了認定申請をおこない、最終審査に合格すること。

※1 フィールドワークは、滋賀、福岡または長野のいずれかのプログラムへの参加が必須となります。

また、すべてのフィールドワークへの参加も可能です。

(フィールドワークの実施先は、変更・追加する場合があります)

※2 課題研究の最後に開催される、課題研究発表(3月)への参加は必須となります。

カリキュラム

<科目区分>	<科目名称>	<担当教員> *非常勤
講義科目	① 福祉社会開発論	平野隆之
	② 地域再生・女性の起業	野田直人* 野田さえ子*
	③ 地域福祉マネジメント論	平野隆之
演習科目	④ 支援のフィールドワーク	小國和子
	⑤ 調査方法論	田中千枝子*
	⑥ フィールドワーク [事前学習・現地実習]	平野隆之 吉村輝彦
	⑦ 課題研究	全教員



意見発表の様子

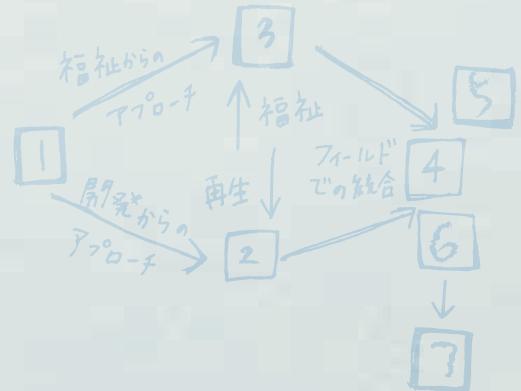
科目名	地域再生・女性の起業論	15講 (22.5時間)
担当者	野田直人・野田さえ子	
テーマ	日本の地域開発の推進アプローチと、地域再生における女性の起業	
科目的ねらい	＜キーワード＞ 地域おこし、内発的開発、行政とエージェント、女性の起業、ビジネスモデル ＜内容の要約＞ 地域内発性による人の開発と経済開発に結び付ける日本に特徴的な地域おこし、地域再生理論する。 ＜授業目標＞ 内発性に基づいた地域開発のパターンと、その中の女性の役割を他者に説明でき、各自の現場での応用を構築できる。起業の機会の分析や事業化の方法論の一端を身につけられる。	
授業の進め方	第1回 内発性（地盤によるアイデンティティに基づく） 第2回 エージェント（生産者と市場を結ぶ仲間者）の存在 第3回 地域イメージと地域プランニングによる差別化 第4回 6次産業化 第5回 一村一品の意味と説解 第6回 よそ者若者異常者の重要性（内部者視点の限界） 第7回 問題分析よりも実践 第8回 行政の支援とスケールアップ 第9回 地域再生における女性起業家の役割と特徴 第10回 コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスと女性 第11回 事例紹介～事業性・社会性のバランスをどのように実現するか 第12回 ケーススタディ：ネットワーキングによるスケールアウト ～女性クリエイターの段階的発展 鹿沼そばの成功の秘訣 第13回 初業シミュレーション①資金計画と資金繰り計画表を作成する 第14回 初業シミュレーション②資金計画と資金繰り計画表を作成する 第15回 初業シミュレーション③損益分岐点を見極める	
事前学習の内容・ 学習上の注意	○地域経済を取り上げるテレビ番組を見ること。特に「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」など。 ○データをあらかじめ読み通しておくこと。 ○できる限り多くの参考文献に目を通しておくこと。 ○レポートのまとめ・小論文の書き方を学んでおくこと。	
本科目の 関連科目		
テキスト	なし	
参考文献	○大和田信子（2011）「アグリ・コミュニティビジネス 嵐山村力×交流力でつむぐ幸せな社会」学芸出版社 ○金丸弘美（2009）「田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則」日本放送出版協会 ○鶴見博・松永桂子（2010）「農産物直売所、それは地域との出会いの場」新評議会 ○農林水産省中国四国農政局（2007）「まんが農業ビジネス列伝 からり一切り開かれたり家の光景会」 ○高野 雄志（2009）「ローマ法王に米を食べさせた男 通説の村を救ったスーパー公務員は誰でしたか？」講談社 ○山谷浩介／NHK広報取材班（2013）「里山資本主義」角川書店 ○山崎亮（2011）「コミュニケーション・デザイン 一人がつながるしくみをつくる」学芸出版社 ○横石知二（2007）「そうだ、乗っ払を売ろう！ 通説の町、どん底からの再生」ソフトバンククリエイティブ ○油井文江著者（2012）「あなたも社会起業家に！ 一歩する・生きる十五のストーリー」富山房インターショナル	
成績評価方法 と基準	オンラインで講義受講および掲示板授業への参加度により評価する。	

履修の特徴

このプログラムのカリキュラムの重点の一つは、履修生それが自分の現場の問題を取り上げ、他の履修生や教員との豊かな議論、またフィールドワークを利用して知見を深めながら、解決策を追求していく「課題研究」です。

当プログラムに参加し、こうした課題研究にとくに力を注いで履修することも可能です。

科目群は、それぞれの主題や方法が互いに連関するよう工夫されており、講義・演習とフィールドワークの循環により、教育効果が高められるように配置されています。地域の福祉課題に接し、分析の枠組みと方法を考え、関係形成にアクターとして参加し、関連する経験や知見を媒介し、事業化を試み、持続的な地域再生に向けたアセスメントを行う、といった「福祉開発マネジメント」の一連のサイクルを想定し、それに対応する理論や方法に即して各科目が位置づけられています。



受講生の声



2020年度 受講生(長野県同窓会事務局長) 丸山 健太さん

地域再生のための「福祉開発マネジャー」養成プログラムを受講したきっかけは、私が住んでいる安曇野市明科の長峰山中腹に位置する清水地区が準限界集落であり、10年後の集落のために若い世代を中心に開始した竹林整備を今後どのような形で発展させていかかを悩んでいた時に同窓会の会報に入っていた資料を見て「これだ！」と叫び、即日受講料を含め、妻を説得し応募しました。

今年は新型コロナウィルスの影響で私自身医療機関の勤務ということもあり、開校式に出席できず、一度もリアルな先生や受講生の方たちとお会いできていませんが、e-learningでの授業を受け、オンラインでのセッション等で月1回は先生や受講生の方と話ができる機会を確保してくださったおかげで皆さんを身近に感じ、心強い仲間を得たと一方的に感じています。

オンラインのフィールドワークにはなりましたが、制度ありきで支援を組み立てるのではなく、そのはざまとしっかり向き合うことで制度が活かされる、人々の生活や地域というのはもっと多様で豊かでリアルで奥深い、このプログラムを通してそういうことを自分の言葉でイキイキと発信し実践している方々がいることを知りました。

そういった学びを通して、改めて里山での活動を振り返り、もう一度住民と対話することで急に歯車があったかのように、いろんな目的をもった人たちが協力者として参加してくださったり、邪魔で燃やしていただけの竹を活

用したいという人が現れ、それが今後期間限定の地区的稼げる仕事になりそうという話まで動き出しました。また自分自身の普段の仕事は、医療ソーシャルワーカーを経て、現在は居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして働いていますが、今回の学びを通していつの間にか縦割りの制度や所属する組織の役割で自分を縛っていて、そこに該当しない人々の生活をみなくとも仕事ができているような気になってしまい福祉をとても狭い領域で捉えていたことを痛感しました。

最初は竹を切る活動と自分の仕事が重なるとは思いもしていませんでしたが、人と人とがつながっていくことに関係のないことはないと気づいたら面白いように、整備活動も普段の仕事も見え方が変わり視野が少し広くなって、いろんなことに興味を持ち学ぶことが楽しくなってきました。まさに破竹の勢いです。

また3月の長野県地域同窓会の企画で今回の学びをお話する機会を得ました。何だかんだ言ってもやはり日福のつながりは暖かい。卒業してからしばらく経ちますが日福で良かったと思える1年になりました。



募集要項

出願期間	第1期	2023年3月20日(月)～4月15日(土) 消印有効
	第2期	2023年4月17日(月)～5月6日(土) 消印有効
選考結果発送日	2023年5月12日(金) 予定	
開講式	2023年5月27日(土)午後 日本福祉大学名古屋キャンパス	

募集定員

15名

出願資格

* 詳細は別紙「募集要項」をご参照ください。

- ・大学を卒業された方、または2023年3月卒業見込みの方。
- ・2023年3月末時点で22歳に達している方で、大学卒と同等以上の学力があると本学が認めた方。

出願書類

* 詳細は別紙「募集要項」をご参照ください。

(1)志望理由書(2)履歴・職務経歴書(3)卒業証明書(4)返信用封筒(5)郵便振替払込金受領書のコピー

入学検定料

10,000円

履修プログラムに伴う諸費用

登録料/30,000円

履修料/150,000円

* このほかに、フィールドワーク、開講式出席などに伴う交通費・宿泊費は各自のご負担となります。

出願手続方法

* 詳細は別紙「募集要項」をご参照ください。

出願書類は、郵送により受け付けます。

出願手続・願書送付先

出願・入学に関する一切の照会及び願書の送付先は以下にお願いします。

日本福祉大学大学院履修証明プログラム事務局

〒460-0012名古屋市中区千代田5-22-35 名古屋キャンパス1階 名古屋事務室

TEL (052) 242-3050 FAX (052) 242-3072

E-mail manabi-jim@ml.n-fukushi.ac.jp

専用HP <http://www.n-fukushi.ac.jp/gs/manabi/>

<名古屋事務室窓口時間>平日(月～金) 10:00～17:00

※土・日・祝祭日は受け付けておりませんのでご注意下さい。

